



植物生産分野

広大なオホーツクの自然とそこで展開される作物生産現場が私たちのフィールド!

オホーツクは国内有数の大規模食料生産地帯。ジャガイモ、小麦、ビートなど皆さんに身近な食料の生産を支えています。周辺にはアッケシソウやザゼンソウなど、綺麗だけじゃなく、未知の機能を秘めた野生の植物もたくさん自生しています。植物生産分野では、バイオテクノロジー、作物学、資源植物学、土壌学、植物病理学などの領域を統合した教育研究を通して、持続的な食料生産に貢献できる人材育成を目標としています。

美しい穂を揺らす
オホーツク産ビール大麦



北海道のジャガイモは
生産量日本一



動物生産分野

北海道といえば酪農、そして野生動物!

オホーツクでは、広大なエリアを活かした酪農と畑作の複合経営「耕畜連携」が盛ん。動物生産分野では、家畜のエサ作り、飼育技術、繁殖技術、糞尿処理、そして畜産物の美味しさまでサイエンスできる人材育成に取り組んでいます。野生のエゾシカとの共生、不思議な大型鳥類エミューの家畜化、野生小型哺乳類の新規実験動物化と分子生態学、実験動物を使った生殖機能や遺伝子機能の研究など、動物にかかわる教育研究は多岐にわたります。

基礎研究を支えてくれる
実験動物たち



生殖補助医療や
家畜増殖に貢献する



フィールド生物資源保全分野

北海道のワイルドライフ!

世界自然遺産「知床」、釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園など、キャンパスの周辺は日本有数の大自然がいっぱい。冬のオホーツクの大空を悠然と舞うオオワシやオジロワシなど、鳥類を中心とした野性動物の生態研究や保全活動に取り組んでいます。冷温帯に分布する森林や湿原は四季を通じて大きく表情を変えていきます。フィールド生物資源保全分野では、オホーツクキャンパスならではのフィールドをフル活用し、野生動植物の生態解明や生態系保全・管理について教育研究を展開しています。

生態系生態学で
森林や湿地を守る



野性動物の生態に
魅了される



東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス
生物産業学部 北方圏農学科
〒099-2493 北海道網走市八坂196番地

ACCESS
女満別空港まで 札幌から 45分
網走駅よりバスで30分 東京から100分
女満別空港より車で20分 名古屋から110分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入試課
TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246
E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

北方圏農学科ホームページ
https://www.nodai.ac.jp/academics/bio/o_biop/

飛び立て、
雄大な学びの
FIELDへ。

東京農業大学 生物産業学部
北方圏農学科

3分野の フィールドサイエンスで 人材を育成します!



植物生産
分野

フィールド
生物資源保全
分野

動物生産
分野

大自然 × 生産現場 × 研究室

1年次・2年次

充実した実習をベースとした学び!

広大な自然と実際の生産現場での実習を通して、
農学、畜産学、生態学などを総合的に学びます。
1・2年次の実体験が、より高度な専門科目を
学ぶための基盤となっていきます。

生産現場に学ぶ実習から
研究へと発展

例えばこんな実習が!

広大な畑で体験する
砂糖の原料「ビート」の
育成管理では、
地域の農家が先生。

「ウシ」・「ウマ」・「ヤギ」・
「ブタ」・「ニワトリ」と
ふれ合い、家畜管理の
基本を学ぶ。

300種類以上の草花が
咲き、野鳥が繁殖する
「ワッカ原生花園」で
自然観察実習。

スノーシューを付け、
キャンパスをぐるりと囲む
「ファイントレール」に足を
踏み入れる冬の自然観察。

牛肉や牛乳の生産を
支える「哺育センター」や
「酪農場」で、ウシの
飼養管理をじっくり実習。

国立公園の「知床」・
「阿寒」・「釧路湿原」で、
自然環境の管理や
保全について学ぶ。

5つの
研究室

作物生産
管理学
研究室

植物生産
科学
研究室

家畜生産
管理学
研究室

動物資源
開発学
研究室

生態系
保全学
研究室

3年次・4年次

研究室活動と卒業論文研究がスタート!

3年生になると、5つの研究室に分かれて専門的な学びが
始まります。卒業論文の研究テーマは、フィールドワークを
主体としたものから、細胞生物学や分子生物学などの
基礎科学まで、幅広い内容から選択できます。

